



【未来に残す高知の宝物 高知遺産】の提言

提 言

2009年6月

土佐経済同友会

【未来に残す高知の宝物 高知遺産】の提言

土佐経済同友会

代表幹事 岡内 啓明

代表幹事 久松 朋水

観光振興委員長 佐竹 新市

提言1 未来に残す高知の宝物、「高知遺産推進協議会」の設置

高知の観光資源を、行政・県民共同で熱い情熱を持って次世代につなぎ、県民の誇りとなる「高知遺産」を推進・運営する機関として、行政や団体を核に「高知遺産推進協議会」を立ち上げる。

提言2 高知の宝物「高知遺産」の県民総参加による決定

「高知遺産推進協議会」を中心に広く候補を募集し、選考委員会により「高知遺産」を決定し、今後の高知の幅広い観光振興・経済活性化につなげる。

提言3 未来につなぐ高知の宝物「高知遺産」の活用と発展

「高知県産業振興計画」のアクションプランとも連動し、「観光八策」の具体的な推進手段のひとつとして、さまざまな「高知遺産」による観光振興の仕組みを、「高知遺産推進協議会」と各遺産の主幹団体、関係する企業・団体・行政、そして市民とともに活用・発展し、高知県の400万人観光・1000億円産業の実現を目指す。

(はじめに)

高知県は、年間をとおしての温暖な気候と、自然・風土・歴史・文化・人など多くの観光資源に恵まれている。これまで、それらを生かした観光振興を長年にわたって展開してきた結果、一応「南国土佐」のイメージは確立されてきた。

しかし、近年、「観光」（観光資源）に対する業界や旅行者の志向は大きく様変わりし、観光における地域間競争はますます厳さを増してきている。

こうした中で、高知県の観光資源を次世代に引き継ぐためにも、ここでもう一度、高知県にある有形・無形の観光資源にスポットライトを当てて、「高知遺産」という形で観光資源を再確認し、新たな感覚（基準）で認識することが、高知県の観光振興をはかる上でも非常に重要である。

「土佐・龍馬 であい博」、大河ドラマ「龍馬伝」、「エンジン01文化戦略会議」、「ETC割引効果」等、高知県の観光にフォローの風が吹いている今、この風を継続的なものにしていくためにも、高知県にあるさまざまな有形・無形の観光資源の中から、「高知遺産」を県民の参加によりを広く募集し、「未来へ残し、育て、発展させていく県民全体の〈宝物〉」を決定する必要がある。この県民の誇りである〈宝物〉を様々な形で活用し、まちづくり、人づくり、そして観光振興をはじめとする高知県経済の活性化へと、相乗的につなげていくための仕掛けをつくること、今の高知県には求められている。

提言1 未来に残す高知の宝物、「高知遺産推進協議会」の設置

高知の観光資源を、行政・県民共同で熱い情熱を持って次世代につなぎ県民の誇りとなる「高知遺産」を推進・運営する機関として、行政や団体を核に「高知遺産推進協議会」を立ち上げる。

① 「高知遺産」とは＜定義＞（案）

高知県内に存在する有形・無形の観光資源の中から、県民参加によって自然・文化・歴史・生活・産業・特産品・料理・言語（方言）などの中から選定する、県民が特に思い入れを持ち、次世代に引き継ぎ活用させていきたい＜高知の宝物＞が「高知遺産」である。

「高知遺産」は、過去の財産といった価値観にはとらわれず、現在進行形のもの、「未来へつながる遺産」としてとらえていく。

「高知遺産」を育成・活用することにより、高知の魅力を掘り起こし、人づくりやまちづくりを展開する運動「高知遺産ムーブメント」として、さまざまな団体・財界・行政などの協力体制のもと、県民総参加で推進・発展させていく。

② 「高知遺産推進協議会」の設置と事務局の運営（案）

- ・「高知遺産」の選定に向けて、高知県、観光コンベンション協会、経済団体、学識経験者、観光業界のメンバーを中心に「高知遺産推進協議会」を設置し、産官学民の協力のもと「高知遺産」の仕組み作りを協議し合意形成を図る。
- ・【想定されるメンバー】：高知県、市町村、観光コンベンション協会、商工会議所、経済同友会、青年会議所、マスコミ、美術館・博物館館長、シンクタンク、大学関係、観光事業者、観光団体、観光特使 など
- ・事務局は、当初は観光関連組織の中に設置し、NPO 法人化を目指す。
- ・運営においては、資金的には公的な助成金や委託金を数年間は必要とするが、ロゴマークや名称について商業的に使用権を持つことのできる、スポンサー的な＜高知遺産応援団（企業等）＞からの収入等を中心に自立を目指す（将来的なライセンスビジネスの確立）。

提言2 高知の宝物「高知遺産」の県民総参加による決定

「高知遺産推進協議会」を中心に広く候補を募集し、選考委員会により「高知遺産」を決定し、今後の高知の幅広い観光振興・経済活性化につなげる。

①「高知遺産」の選考基準（案）

- 「高知遺産」は、県民の地域の誇りと愛着に溢れ、人々に感動を与えるものである。
- 「高知遺産」は、単に客観的な評価基準で選考するのではなく、地域の思い入れや今後の取り組みの期待値などを重視して選考する。
- 「高知遺産」は、それを育成・活用する過程で、地域づくりや人づくりに結び付くものである。
- 「高知遺産」は、観光の推進や地域発展につながるものである。

②「高知遺産」の公募・選考審査（案）

- ・公的機関を中心に広く応募の窓口を設置し、県民の誰でもが参加しやすい公募の仕組みを検討する。
- ・応募の段階で参加が難しくならないように、ジャンルにとらわれずに広く募集する。
- ・高知県知事を審査委員長に、協議会メンバー等を中心とした選考委員会を設置する。
- ・ネットでの投票など、県民も参画できる仕組みを作る。
- ・当初の候補数としては、適当と思われる厳選した20-25程度とする。
- ・将来は四国島内の広域観光の資産（四国遺産）として、4県で連携して88件を選定することを見込んで、「高知遺産」の数を決定する。

提言3 未来につなぐ高知の宝物「高知遺産」の活用と発展

「高知県産業振興計画」のアクションプランとも連動し、「観光八策」の具体的な推進手段として、さまざまな「高知遺産」による観光振興の仕組みを、「高知遺産推進協議会」と各遺産主幹団体、関連する企業・団体・行政、そして県民とともに活用・発展し、高知県の400万人観光・1000億円産業の実現を目指す。

①まちづくり（観光振興）（案）

- ネット上に日本語、英語他多言語の「高知遺産」オフィシャルページを作成し、利用者の立場に立ち、需要に見合い分かりやすい様々な情報を提供する。
- 公式ガイドブックを作成し販売する（各種クーポン付）。
- キャラクター、ロゴを公募する。
- 公認グッズを作成する。
- 「高知遺産応援団」にロゴ、呼称を商業的に活用してもらい普及に努める。
- 他の観光関係のWebサイトとも連携をとり、相乗的な普及活動のための集中キャンペーン等を実施する。
- 「高知遺産」を核に体験型・学習型・グルメ型などのツアーを商品化し、旅行業界よりPRをするとともに、遺産めぐり観光プランを広く公募し、優秀作も商品化する。
- 高知新聞誌上で連載記事を展開すると同時に、テレビで番組化し毎回1か所を題材に放送する。
- 旅行雑誌、タウン誌等とタイアップした企画を展開する。
- 応援団企業の関連商品や「高知遺産」関連商品を集約したショッピングサイトを開設する。
- 高知の食との連携イベントやツアーを実施する。
- 「高知遺産」を題材にしてのフィルムコミッション事業を展開する。
- 選考から漏れた応募の中から、B級遺産を決定し、B級専門のサイトで紹介、専用のSNSを用意する。
- それぞれの「高知遺産」のさらに詳しい<蘊蓄>を公募し蘊蓄大賞を決定する。
- 記念切手、記念硬貨等を発行する。

②ひとづくり（案）

- 小学校・中学校向けの「高知遺産読本」を作成し、教育現場で活用していただくことで、学校教育・社会教育に役立て、高知の歴史・文化・自然を学ぶ機会を創出する。
- 「高知遺産」を核とした修学旅行を誘致することにより、高知の歴史・文化・自然への理解を深める。
- 「高知遺産」を核にしたウォーキングツアーや、植物、動物等テーマごと解説付きのイベントに、関連した専門家に参画してもらうと共に、民間の地元ガイドやボランティアの育成と組織化を図る。
- 「高知遺産」を中心に該当地域との連携を重視し、地域の人材育成を積極的に行う。
- 県民全体で「高知遺産ムーブメント」へ参加することにより県民全体のホスピタリティー向上を図る。
- 「高知遺産ファンクラブ（仮称）」を作り、年会費 500 円程度でサポートしてくれる個人会員を募集し、情報誌を発行すると共に、ID を授与し前述のロコミサイトに SNS 的に書き込み権を持たせる。
- ジャンル毎に、それらのジャンルの県外との交流イベントを実施する。

③その他（案）

- デジタルアーカイブを作成するとともに、文化財、歴史的資源、天然記念物等の保護への取り組みも検討する。
- 「高知遺産」を核に、利用しやすい交通基盤の整備の推進につなげる。
- 広域連携を促進し、四国 4 県の協力のもと「四国遺産 8 8 構想」を実現する。
- すでに 9 年目を迎える「北海道遺産」、「とやま未来遺産」（3 年）、「佐賀県遺産」等、全国で広がりつつある全国の遺産と連携を図り、相互発展を検討する。

【土佐経済同友会 観光振興委員会 メンバー一覧】

佐竹 新市 (委員長) 木村 祐二 (副委員長) 松山 正博 (副委員長)
西岡 邦彦 (書記役) 吉本 真 (書記役)

市原 芳一郎 市村 伊佐雄 今村 浩士 植木 哲朗 衛藤 公洋
大野 加恵 岡内 啓明 片岡 賢 加藤 貴之 金子 豊
刈谷 昭信 川崎 卓巳 川添 博 国久 清司 黒田 育央
齋藤 尚久 坂本 世津夫 塩崎 陽司 芝 啓朗 竹内 幸治
竹内 太一 竹内 康雄 竹島 譲 武田 薫 武田 倫明
竹村 克彦 田中 昭生 田中 榮一 田村 真里 寺村 勉
東谷 望史 徳岡 幸義 中屋 宏二 中山 康 野村 直史
日和崎 三郎 福田 幸三 藤田 智久 藤林 敬 藤本 正孝
藤本 実智則 二神 昌彦 古谷 博 堀 大器 前田 道雄
松尾 徹人 松江 勇 水田 浩二 味本 隆 宮内 重延
宮下 博卓 宮村 耕資 宮本 正司 三好 朝男 安並 寛明
山口 治 山崎 潤一郎 山中 正一 山本 浩志 山本 雅久
横山 香代子 武藤 信義 (特)

【観光振興委員会 委員会記録】

◆2008年

第1回：2月28日 30名 第2回：3月24日 22名 第3回：4月28日 20名
第4回：5月27日 20名 第5回：6月24日 20名 第6回：7月28日 20名
第7回：9月29日 20名 第8回：10月27日 13名 第9回：11月25日 8名

◆2009年

北海道遺産視察 北海道遺産推進協議会訪問 1月7日・8日

第1回：1月26日 21名 第2回：3月2日 12名 第3回：3月30日 8名
特別会議：4月20日 4名 第4回：5月8日 16名

本件に関する問合せ先

土佐経済同友会 事務局

〒780-0823

高知市菜園場町 1-21 四国総合ビル 3F

四銀キャピタルリサーチ（株）内

TEL : 088-885-6707 FAX : 088-883-1156

メール・アドレス : tosadoyu@orange.ocn.ne.jp

インターネット・ホームページ :

<http://www.tosadoyukai.com/>